

農村の現状と官民共創 ～企業版ふるさと納税の活用事例とともに～

令和6年10月31日（木）

農村振興局 農村政策部
農村計画課 農村活性化推進室
（室長 朝日健介）

MAFF

Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries

農林水産省

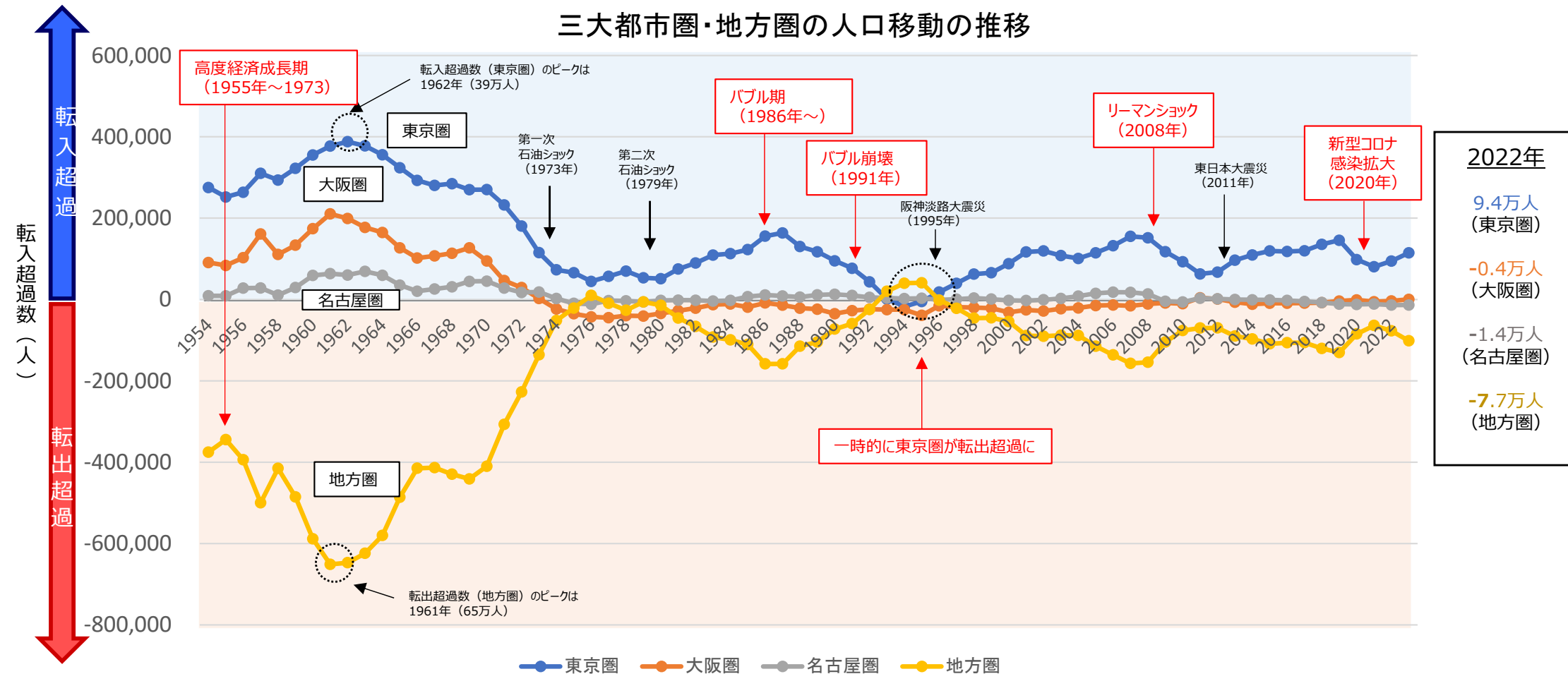
目 次

1. 都市部の一極集中の状況	・・・2
2. 農村における人口減少と高齢化	・・・3
3. 過疎地域における人口増減の要因	・・・4
4. 総戸数9戸以下の集落の増加と集落活動の実施率の低下	・・・5
5. 食料・農業・農村政策の新たな展開方向」上の位置づけ	・・・6
6. 「デジ活」中山間地域	・・・7～9
7. 二地域居住	・・・10～13
8. 官民共創（令和6年度農山漁村情報発信事業に係る取組概要）	・・・14
9. 企業版ふるさと納税の活用事例	・・・15～20

1. 都市部の一極集中の状況

- 高度経済成長期には、地方圏の人口が三大都市圏に流入していたが、1980年頃にかけて人口流入は沈静化。2010年代は、東京圏のみ転入超過の傾向。
- コロナ禍により、東京圏への転入超過は一時的に緩和されたが、2022年には転入超過が再び拡大傾向。

三大都市圏・地方圏の人口移動の推移



（出典）総務省「住民基本台帳人口移動報告」を基に農林水産省で作成。

（注）地域区分の定義

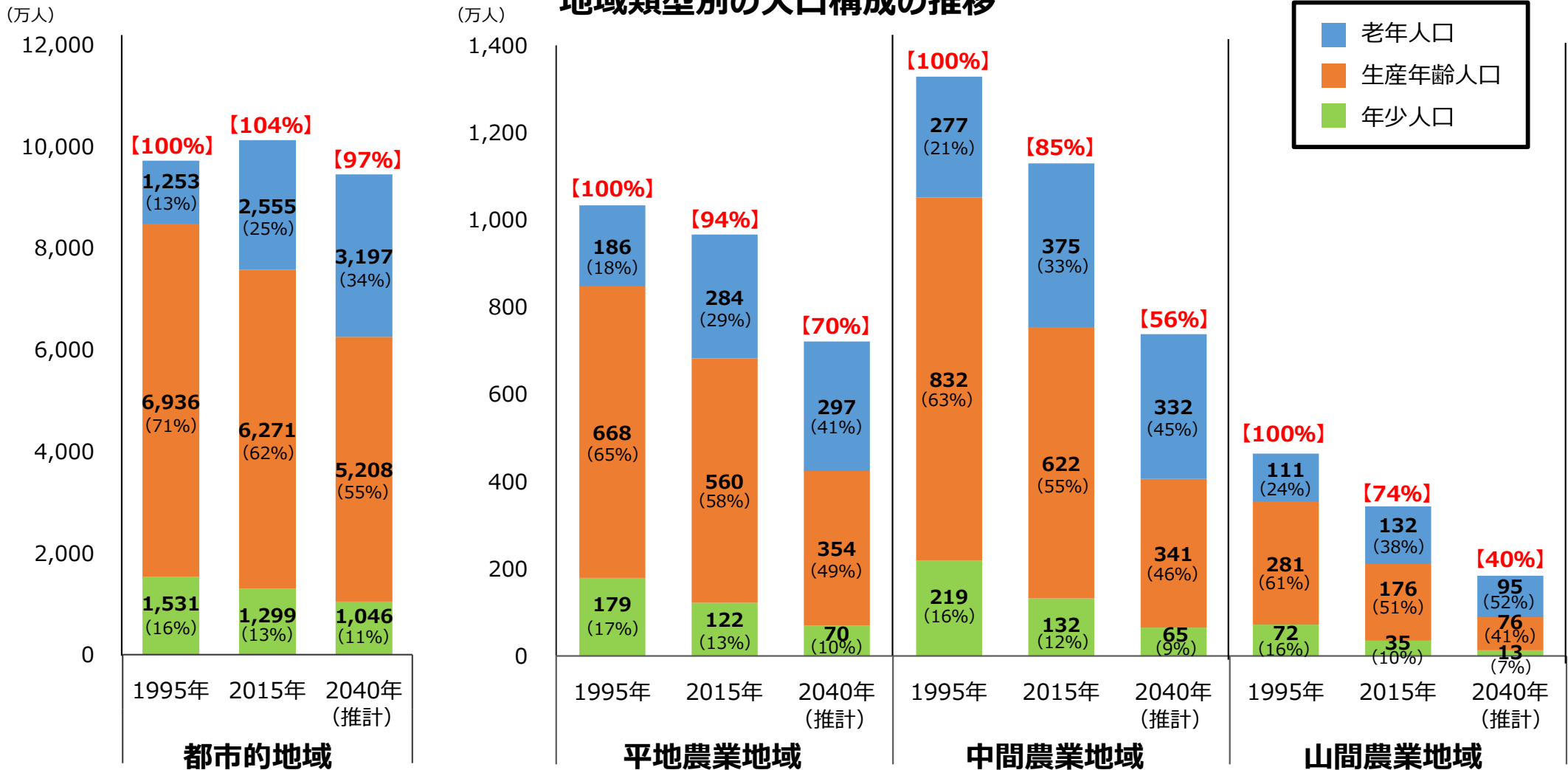
東京圏：埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県
大阪圏：京都府、大阪府、兵庫県、奈良県

名古屋圏：岐阜県、愛知県、三重県
地方圏：東京圏、名古屋圏、大阪圏以外の地域

2. 農村における人口減少と高齢化

- 地域類型別に人口構成の推移を見ると、2015年においては、1995年比で山間(▲26%)、中間(▲15%)、平地(▲6%)の順で人口減少率が高い。また、2015年の高齢化率も、山間(38%)、中間(33%)、平地(29%)の順で高い。2040年には、さらに人口減少及び高齢化が顕著に現れることが予測されている。

地域類型別の人口構成の推移

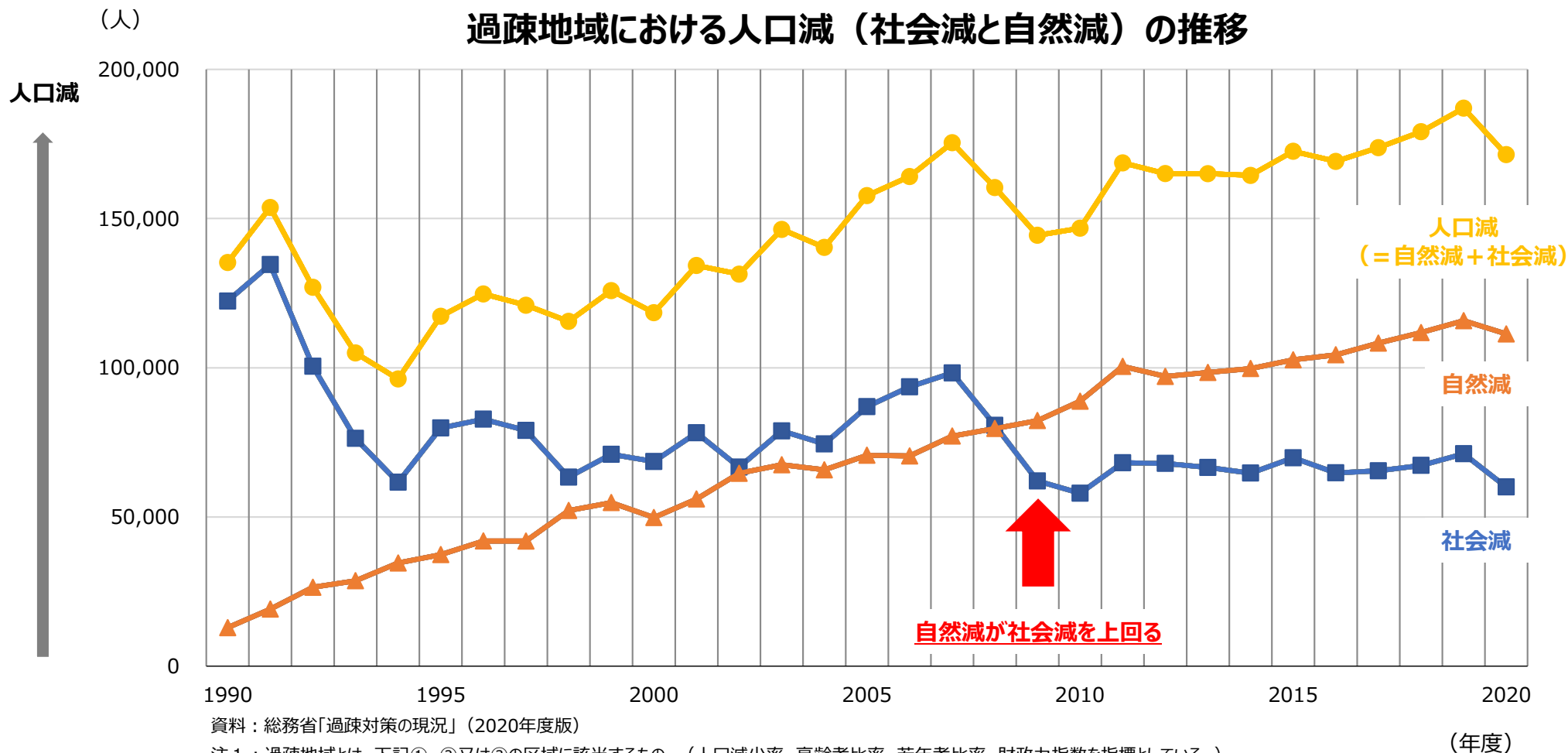


資料：農林水産政策研究所における国勢調査の組替集計のデータを基に
農林水産省農村計画課にて作成。なお、2040年はコーホート分析による推計値。

注1：【 】は1995年を基準値100%とした、2015年と2040年の相対値
注2：（ ）は各年の合計人口数における割合

3. 過疎地域における人口増減の要因

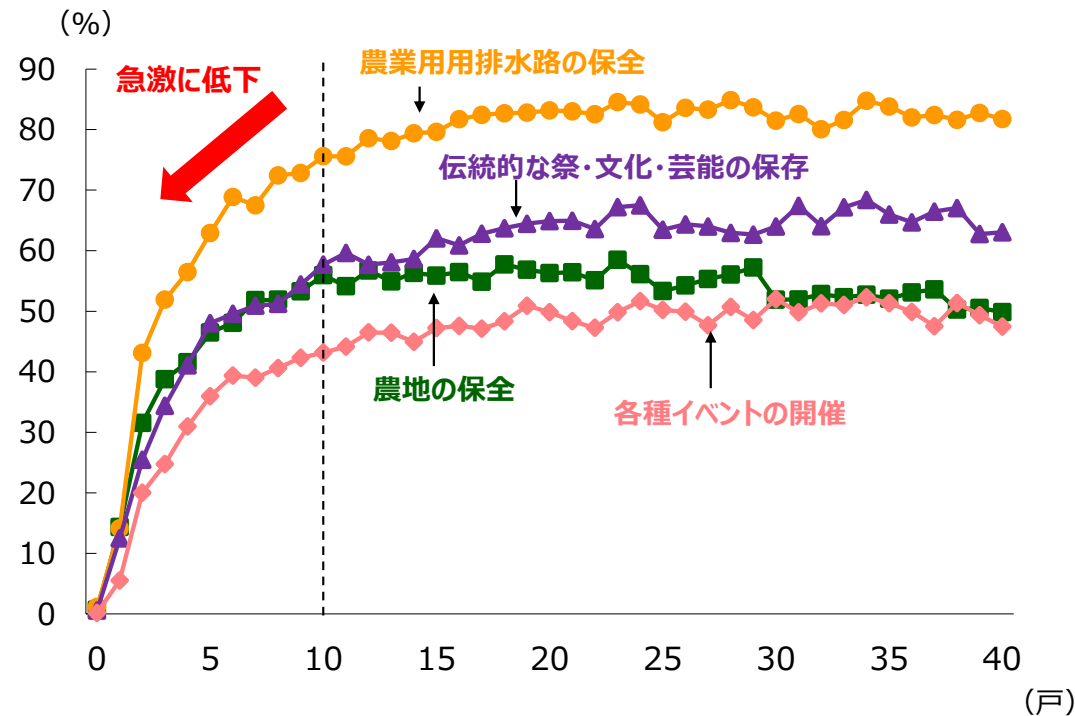
- 過疎地域の人口増減の要因を、出生・死亡による「自然増減」と転入・転出による「社会増減」から見ると、1989年以降、社会減と自然減の両方が人口減少の要因となっている。
- 2009年以降、社会減より自然減が大きくなっている。



4. 総戸数9戸以下の集落の増加と集落活動の実施率の低下

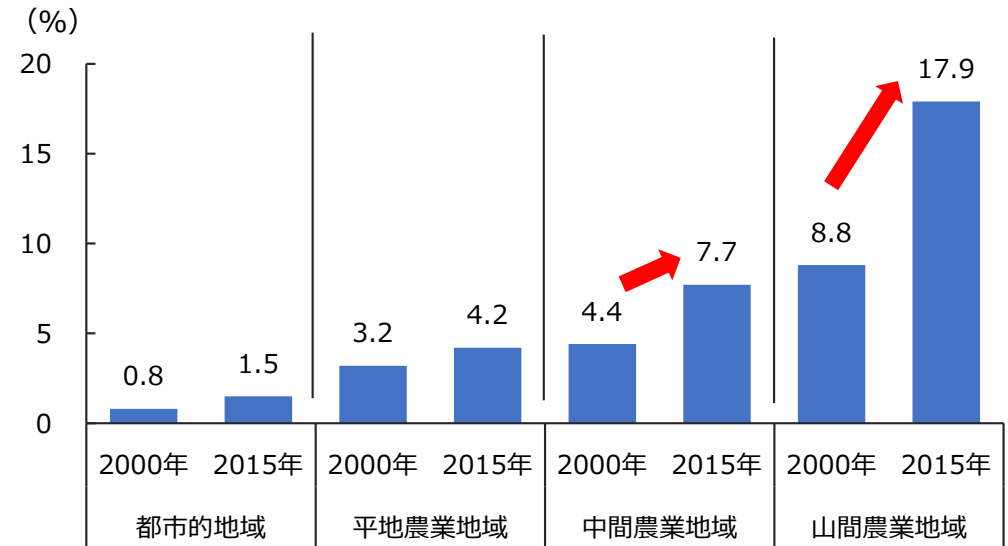
- 人口減少に伴い、農業集落内の戸数が減少し、2000年から2015年にかけては、いずれの地域類型においても9戸以下の農業集落（無人化集落を含む。）の割合が増加。
- 集落の総戸数が10戸を下回ると、集落活動の実施率は急激に低下。
- 農業集落に占める農家の割合は低下してきており、混住化が大きく進展。

集落活動の実施率と総戸数の関係



資料：農林水産政策研究所「日本農業・農村構造の展開過程-2015年農林業センサスの総合分析-」
(2018年12月)

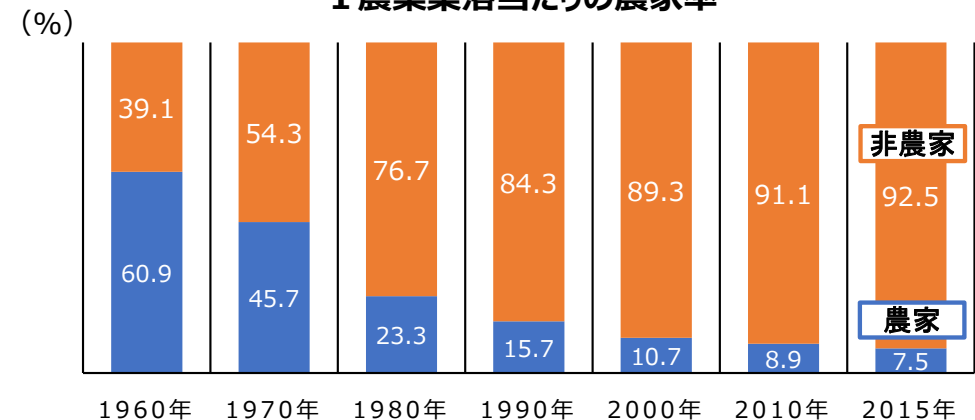
総戸数が9戸以下の農業集落の割合



資料：農林水産省「農林業センサス」

注：農業地域類型区分は、2000年は平成13年11月改定を使用、2015年は平成29年12月改定を使用。

1 農業集落当たりの農家率



資料：農林水産省「農林業センサス」

5. 食料・農業・農村政策の新たな展開方向」上の位置づけ

食料・農業・農村政策の新たな展開方向(令和5年6月2日)	具体的な施策の内容
Ⅱ 政策の新たな展開方向 4 農村の振興（農村の活性化） 農村の活性化を図る上で重要な課題である「しごと」「くらし」「活力」「土地利用」の観点から、以下の施策を推進する。 ① 多様な人材の呼び込みに必要な農村の「しごとづくり」を強化するため、地産地消・6次産業化や農泊など地域の資源を活用した農山漁村発イノベーションを推進するとともに、関係人口も交えて地域に根ざした経済活動が安定的に営まれるよう、官民共創の仕組みも活用しながら伴走支援を行う。 ② 複数集落エリアで農地保全や生活環境支援等に集約的に取り組むなど、農村の「くらしづくり」を担う農村RMOについて、特に中山間地域の小規模集落向けに形成を図る。 ③ 中山間地域等において、棚田の振興など地域に「活力」を創出するための社会貢献やビジネスの展開を図る企業の活動を後押しし、企業と地域との相互補完的なパートナーシップの構築を推進する。 ④ 中山間地域における農地保全のための地域ぐるみの話し合い、農地の粗放的な利用、基盤・施設整備等にきめ細やかに取り組めるよう支援し、農村の持続的な「土地利用」を推進する。 また、こうした課題に対して、地域資源やAI、ICT等のデジタル技術を活用し、解決に向けて活動する「デジ活」中山間地域での取組を、農林水産省が中心となり、関係府省と連携して支援する。 これらの施策のうち、6次産業化や農村RMOについては、現行の基本法では、具体的な規定はないが、地域コミュニティの維持に必要不可欠な取組である旨を位置付ける。	4 農村の振興（農村の活性化） 展開方向に記載されている施策について、以下のとおり具体化を進める。 ① 関係省庁との連携の下、これまで農業・農村に関するしごとに関わっていなかった事業者と農業・農村活性化に関わる関係者とのマッチング機会の創出などを目指した官民共創の仕組みにより、課題解決に協力可能な企業を農村に呼び込む。 ② その上で、個別の施策については、以下のとおり深化させる。 ア) 農山漁村発イノベーションについて、事業化に向けた取組の強化を通じ、新事業や付加価値を創出し、農村の雇用や所得を確保する取組を推進する。 イ) 農泊について、更なる宿泊者数・インバウンド誘客・関係人口の増加に向けて、高付加価値化のモデルを創出し、全国へ横展開する。 ウ) 農村RMOについて、特に中山間地域等の小規模集落向けに、組織の立上げや活動充実の後押しと、市町村・都道府県・関係府省と連携したサポート体制の構築を推進する。 「食料・農業・農村政策の新たな展開方向」に基づく具体的な施策の内容 (令和5年12月27日食料安定供給・農林水産業基盤強化本部) 資料より抜粋（一部加工） 6

6-1. 「デジ活」中山間地域

- 「デジ活」中山間地域とは、地域の基幹産業である農林水産業を軸として、地域資源やAI、ICT等のデジタル技術の活用により、課題解決に向けて取組を積み重ねることで、活性化を図る地域づくりを目指す地域。
- こういった地域で活動する意欲的な農村型地域運営組織（農村RMO）等に対して、関係府省連携チームでサポート。
- 令和6年7月24日現在、35道府県79地域が登録。



※①Digi田甲子園受賞地区、②③デジタル田園都市国家構想交付金(地方創生推進タイプ：小さな拠点、デジタル実装タイプ：TYPE1)、④過疎地域等集落ネットワーク圏形成支援事業、⑤地域デジタル基盤活用推進事業、⑥みどりの食料システム戦略推進交付金（グリーンな栽培体系への転換サポート）、⑦農村型地域運営組織モデル形成支援、⑧元気な地域創出モデル支援、⑨スマート農業実証プロジェクト、⑩デジタル林業戦略拠点構築推進事業、⑪デジタル水産業戦略拠点整備推進事業、⑫地域新MaaS創出推進事業、⑬日本版MaaS推進・支援事業、⑭地域公共交通確保維持改善事業費補助金（自動運転社会実装推進事業）、⑮（運輸部門の脱炭素化に向けた先進的システム社会実装促進事業のうち）運輸部門の脱炭素化に向けた次世代型物流促進事業 から応募

6-2.「デジ活」中山間地域 重点伴走支援について

関係府省の登録事業を実施→登録申請（チェックシートを提出）→関係府省連絡会議で「デジ活」に登録

内閣府	総務省	農林水産省	経済産業省	国土交通省
● Digi田甲子園受賞地区 ● デジタル田園都市国家構想交付金（地方創生推進タイプ：小さな拠点） ● デジタル田園都市国家構想交付金（デジタル実装タイプ：TYPE 1）	● 過疎地域等集落ネットワーク圏形成支援事業 ● 地域デジタル基盤活用推進事業	● みどりの食料システム戦略推進交付金（グリーンな栽培体系への転換サポート） ● 農村型地域運営組織モデル形成支援 ● 元気な地域創出モデル支援 ● スマート農業実証プロジェクト ● デジタル林業戦略拠点構築推進事業 ● デジタル水産業戦略拠点整備推進事業	● 地域新MaaS創出推進事業	

初回現地訪問（全地域）

農林水産省職員が現地を訪問し、地域の抱える課題やニーズ、それに対する取組状況などを聞き取り。
登録事業を所管する府省庁をはじめとする関係府省と連携し、課題解決に資する施策や優良事例等を紹介。

2回目以降の現地訪問等（全地域）

半年程度に一度、農林水産省職員が現地訪問等により課題やニーズの進捗状況を聞き取り。
必要に応じて、引き続き課題解決に資する施策や優良事例等を紹介。

（場合によっては）

重点伴走支援（各農政局の訪問等を踏まえ選定）

地域の抱える課題に沿った関係府省庁の制度や補助事業、官民共創の取組等を活用し、継続的に支援。
地域ごとに関係府省庁による支援チームを構築し、ニーズに応じた的確な支援を実施。

今年度から実施する支援

事業を所管する府省庁の
同行やオンライン参加、助言

国によるサポートを
強く希望する地域

支援チーム

内閣府	国土交通省
総務省	環境省
農林水産省	厚生労働省
経済産業省	文部科学省

（地域ごとに、課題やニーズに対応する府省庁で構成）

小学校廃校、郵便局廃止を背景に、令和元年に「地域おこし隊吉縁起村」を結成。地域おこし協力隊や集落支援員と協力し、地域資源やデジタル技術を活用して、地域の拠点施設である立寄処の利便性向上、農産品・特産品の販売による収益の確保、耕作放棄地の再生等に取り組む。

「デジ活」支援窓口

・農林水産省
(中国四国農政局、岡山県拠点)

(推進体制)

吉縁起村協議会

協議(構成団体)

・地域おこし隊吉縁起村
・地域おこし協力隊
・集落支援員
・津田コミュニティ交通
・猟友会落合分会津田班
・真庭市落合振興局

実行

・地域おこし隊吉縁起村
・中山間直払集落協定
・津田コミュニティ交通
・地区猟友会

地域の概要

人口148人(R2国勢調査)、世帯数86世帯(R5)
土地面積679ha(R5)、農地面積22ha(R5)

助言・支援機関

岡山県、地域力創造アドバイザー（総務省）、
①(株)共栄商事、②NTT 西日本、
③国土交通省岡山運輸支局、④(農)寄江原、
⑤(一社)真庭 GadgetCreations、
⑥バイエルクロップサイエンス(株)
A：過疎地域等集落ネットワーク圏形成支援事業（総務省・R6）
B：地域公共交通確保維持改善事業（国交省・R5）
C：市町村管理構想・地域管理構想策定推進対策事業（国交省・R5）
D：スマート農業実証プロジェクト（農水省・R元～R2）

活用した事業

R4農村RMOモデル事業(農水省)に申請・採択→「デジ活」登録

デジ活

スマートストアの設置、貨客混載の実証

・スーパーやコンビニ等の撤退で買い物難民が発生

↓

・無人キャッシュレススマートストアを設置し、**利便性が向上**（①②が支援）

↓

・1店舗のみの運営では採算が取れないことが判明

↓

・4店舗への拡大と地域農産品を用いた新商品を計画（Aを活用）

↓

・負担の増える商品仕入れに**貨客混載を検討**

↓

・津田コミュニティ交通協議会運行のデマンド交通と連携した貨客連携を実証（③が助言、Bを活用）

↓

・商品仕入れのほか、地域農産品等の出荷体制の構築にも活用



6次産業化の推進

・付加価値を創出するため、6次産業化を推進

↓

・葉や茎も食用となるかんしょ「翠王」を栽培。
収穫後の葉や茎から「翠王茶」を製造し、
新たな特産品に

↓

・長粒種（プリンセスサリー）の作付を開始（④と連携）

↓

・大学や地元企業等と連携し、
生産・加工・販売体制を推進



デジ活

ラジコン草刈り機の導入

・圃場の草刈りが大きな負担に

↓

・ラジコン草刈り機を導入し省力化

↓

・耕作放棄地を再生が可能となり、
農用地面積を拡大



デジ活

GISの活用

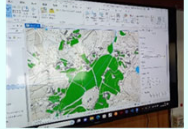
・15年間で生産年齢人口が半分に

↓

・GISを活用した農地マップを作成し、水路等のインフラ情報を集約
・住民の意見もGISデータに反映。情報を一元管理（⑤が支援、Cを活用）

↓

・最適な土地利用について検討
・粗放管理を含む短期的な個別圃場の管理計画と、
水路等のインフラ管理を含む長期的なゾーン構想を策定



デジ活

スマート農業の推進

・スマート農機の導入にあたり、
初期費用が課題

↓

・(農)寄江原において、スマート農機のシェアリングを実証。
田植え機・コンバインの減価償却費が49%低下
（④と連携、Dを活用）

↓

・さらに④⑥と連携し、高精度なドローン直播・防除を拡大する予定



新規就農者の確保

・生産年齢人口が15年間で半分に

↓

・スマート農業により農作業を省力化

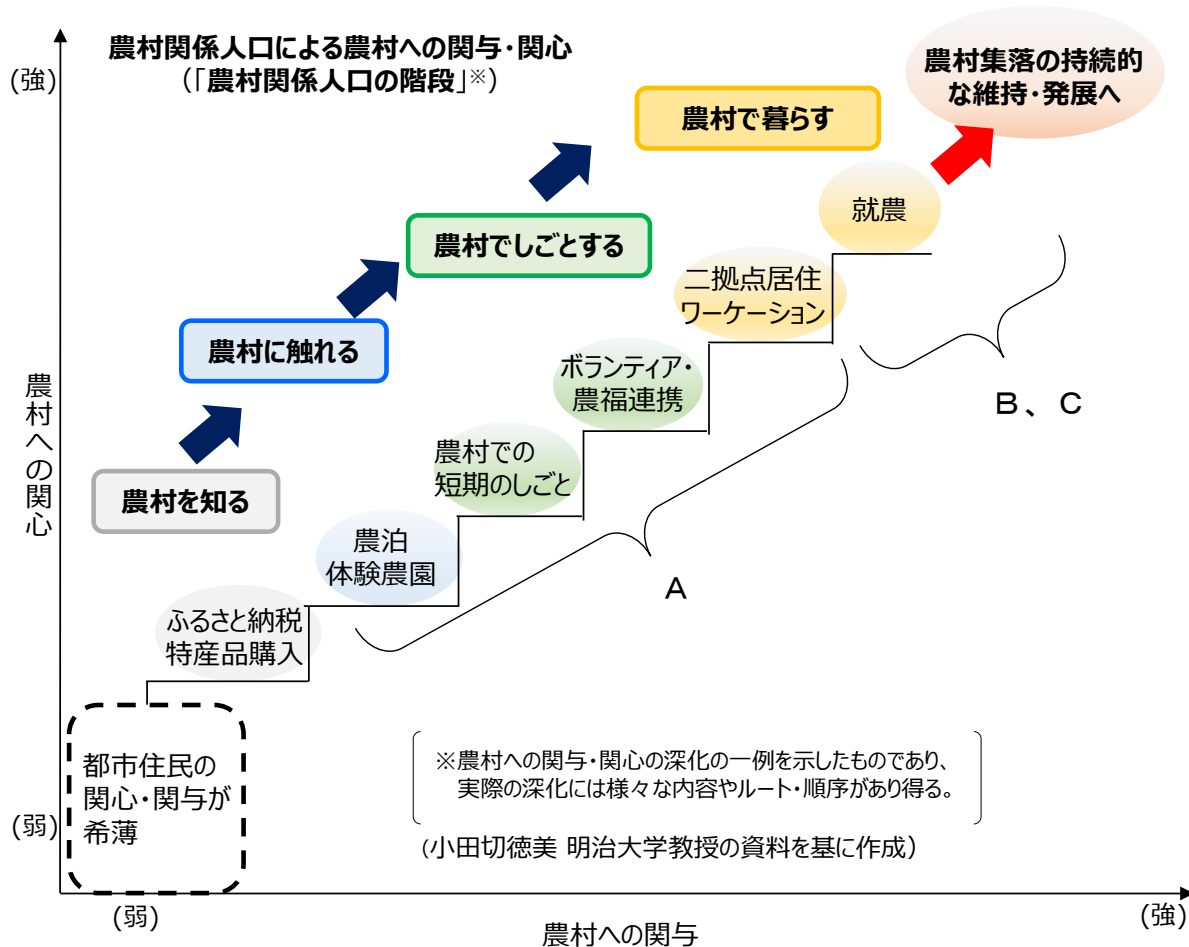
↓

・シニア層3名が新規就農
耕作地は9087㎡増加

7-1. 二地域居住

- 「広域的地域活性化のための基盤整備に関する法律の一部を改正する法律」が令和6年5月15日に成立。
- 今後、
 - ① 市町村にて二地域居住等促進協議会を設置し「特定居住促進計画」を策定するとともに、
 - ② 全国二地域居住促進協議会にて二地域居住推進に係る情報発信等がされるため、農林水産省においても二地域居住者を農村に呼び込み、農村関係人口の創出・拡大を図るため、国土交通省をはじめとする関係府省と連携することを検討。

二地域居住者に対する農林水産省の関連施策等



A 二地域居住者の呼び込み・環境整備

【地域の魅力を発信】

農業遺産、棚田、外食（DMO）、観光業（オーベルジュ）、海業、渚泊

【農山漁村に触れる機会を提供】

農泊・渚泊（宿泊・食事・体験）、市民農園、森林づくり活動への参加
 森林サービス産業（森林浴等）
 教育関係（林間学校等）、企業連携

【農山漁村のしごとを提供】

農山漁村発イノベーション、海業

【農山漁村のくらしづくり】

農村 RMO、デジ活中山間（買物支援、貨客混載等）

B 二地域居住者の居住地での役割

【農山漁村で働く】

農山漁村発イノベーション、海業
 多面的機能支払交付金、中山間地域等直接支払交付金、森林・山村多面的機能発揮対策交付金、水産多面的機能発揮対策事業（共同活動）

C 二地域居住を経て、地域に移住し、担い手として就業

【就農】 新規就農対策

【林業へ就業】 「緑の雇用」担い手確保支援対策

【漁村で就業】 経営体育成総合支援事業

7-2. 二地域居住の取組事例

1 週間のタイムスケジュール

- 2018年に二地域居住をスタートしたときは、**主に休日を過ごす拠点として利用**。
- コロナ禍以降はテレワークが定着したことで、山梨で過ごす時間が増え、**現在は週の約半分（3-4日）程度は山梨で生活**。

曜日	コロナ前	コロナ後
月	東京で勤務（出勤）	東京で勤務（出勤）
火	東京で勤務（出勤）	東京で勤務（出勤）
水	東京で勤務（出勤）	東京で勤務（出勤） 夜の電車で山梨へ移動
木	東京で勤務（出勤）	山梨で勤務（テレワーク）
金	東京で勤務（出勤） 夕方頃の電車で山梨へ移動	山梨で勤務（テレワーク）
土	山梨で休日満喫	山梨で休日満喫
日	山梨で休日満喫 夜の電車で東京へ移動	山梨で休日満喫 夜の電車で東京へ移動

テレワークはツリーハウスや川床などの屋外でも。普段と違う場所でのテレワークは気持ちのリフレッシュに。



妻は主に隔週＆土日のみ山梨で生活。

国土交通省、全国二地域居住等促進協議会 主催「二地域居住等促進シンポジウム」（令和5年11月28日）資料のうち「持続可能な二地域居住の始め方と気になるお金事情」より抜粋

7-3. 二地域居住の取組事例

取組み紹介（害獣駆除を目的とした罾猟）

- 二地域居住を始めた翌々年の2020年に、山梨県内の農産物への獣害について知り、**狩猟免許（罾猟）を取得**。
- 山梨のぶどう畑の害獣駆除を目的に狩猟をする二地域居住者中心の狩猟チームにて、チームメンバーで分担しながら罾の見回りを実施。
- 猪や鹿のほか、タヌキやキツネ、ハクビシンなどの小動物を駆除し、駆除した獣は解体して**ジビエや皮なめしにすることで有効活用**。
- 自然の中で野生の動物と対峙するのは怖いと感じることも多いが、農家さんに喜んでもらえるのでやりがいに繋がるほか、**狩猟を通じて動物の命をいただくことのありがたみを実感**。



最初は命をいただく（殺す）ことに抵抗感があったけど...



いただいた命はしっかり有効活用させていただきます。

7-4. 二地域居住の取組事例

取組み紹介（耕作放棄地での農業）

- 東京から比較的近い山梨県内にも多くの耕作放棄地があることを知り、地元の方々にもご協力いただきながら、今年から約200坪の耕作放棄地で農業を開始。
- 以前は田んぼとして利用されていたがその後一定期間使われていなかった土地だったため、一から自分で耕耘や施肥をしながら、試行錯誤での野菜作り。
- ジャガイモやカボチャ、ブロッコリー、大根など約40種類の野菜とハーブやベリーを育てている。
- 発酵食品ソムリエの勉強をして、柴漬けやたくあん、切り干し大根などの加工品にも挑戦。
- 遅霜で蕎麦を枯らしてしまったり、収穫直前のサツマイモもイノシシにすべて食べられる等、失敗を繰り返し、農作物を作ることの大変さ、普段当たり前スーパーに並んでいる野菜のありがたみを実感。



地域の人に支えられながら、農業を学ぶ。通りがかる地域の人たちが色々話しかけてくれます。



加工品も一から手作り。とても大変ですが、出来上がった時の喜びもひとしお。

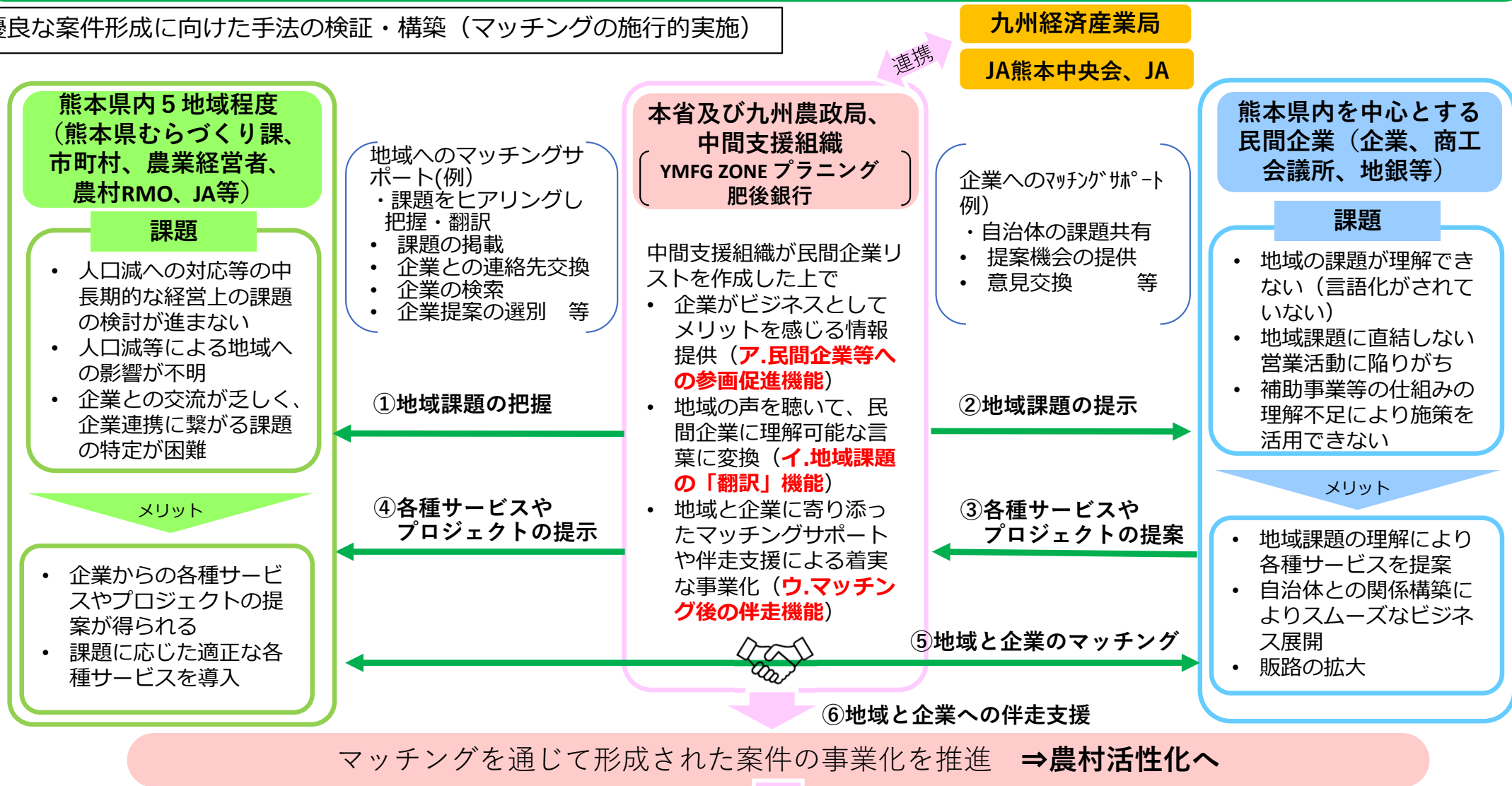


自分たちだけでは消費できないので、東京で会社の同僚や友人に野菜配り。

8. 官民共創（令和6年度農山漁村情報発信事業に係る取組概要）

- 熊本県において官民共創の優良事例の掘起しを行い、検証の上レポートにまとめ、全国へ横展開（情報発信）。
- 事例発掘の一環として、事業者の協力も得て、優良な案件形成に向けた手法の検証・構築を行う（農村地域の抱える課題と課題を解決し得る技術と知見を有する企業とのマッチングを試行的に実施）
（令和6年度 農山漁村振興交付金「情報発信事業」）

優良な案件形成に向けた手法の検証・構築（マッチングの施行的実施）



官民共創による事業化を実現するためのポイントや効果的手法、留意点を取りまとめた手引きを作成し、全国へ横展開

9. 企業版ふるさと納税の活用事例

【企業版ふるさと納税活用プロジェクト】農業の振興、関係人口の創出・拡大に向けた取組

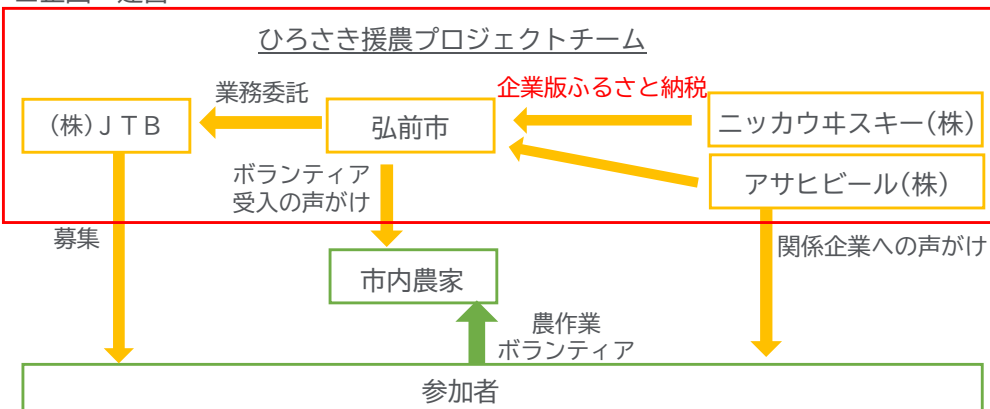
ひろさき援農プロジェクト（援農ボランティアツアー）

事例概要

自治体名	ひろさき 青森県弘前市
寄附額 寄附件数	¥ 10,000,000 / 2件
寄附までの プロセス	・令和2年度よりニッカウキスキー(株)が援農ボランティアを実施。 ・アサヒビール(株)およびニッカウキスキー(株)から、 地域のりんご・シードル産業の活性化に役立ててほしい、と寄附の申し出。
事業概要	【農業・観光連携りんご産業活性化事業】 弘前市の農業課題である 繁忙期の労働力不足の解決 に向けて、その一助となる 援農ボランティアツアー を実施。
実施状況 (令和6年4月現在)	令和5年度に事業開始。令和5年10月～11月にかけて全5日実施し、全国から282名が参加。
寄附企業の 活用ポイント	りんごを原料とするシードルを製造・販売する両企業が、りんご・シードル産業の課題解決や活性化を図るため。
寄附企業との 連携・交流等	・飲料メーカーと弘前市での協議の中でりんご産業の支援案が生まれ、(株)JTBに業務を委託し4者で構築。 ・飲料メーカー及び旅行業界の社員もボランティアツアーに参加。
寄附企業紹介URL	https://www.city.hirosaki.aomori.jp/jouhou/seido/kigyoubanfurusatouzei.html

事業スキーム・体制

■企画・運営



(プロジェクト概要)

全国からりんご収穫ボランティアの参加者を募り、弘前市内のりんご農家のもとで1日従事していただくツアーを企画・運営する事業。
また、ツアーの前後に観光滞在できるように宿泊助成を行い、農業と観光の連携により関係人口の増加も図る。



(令和5年度) 援農ボランティアツアーの様子

9. 企業版ふるさと納税の活用事例

【企業版ふるさと納税活用プロジェクト】林業の振興に関する取組

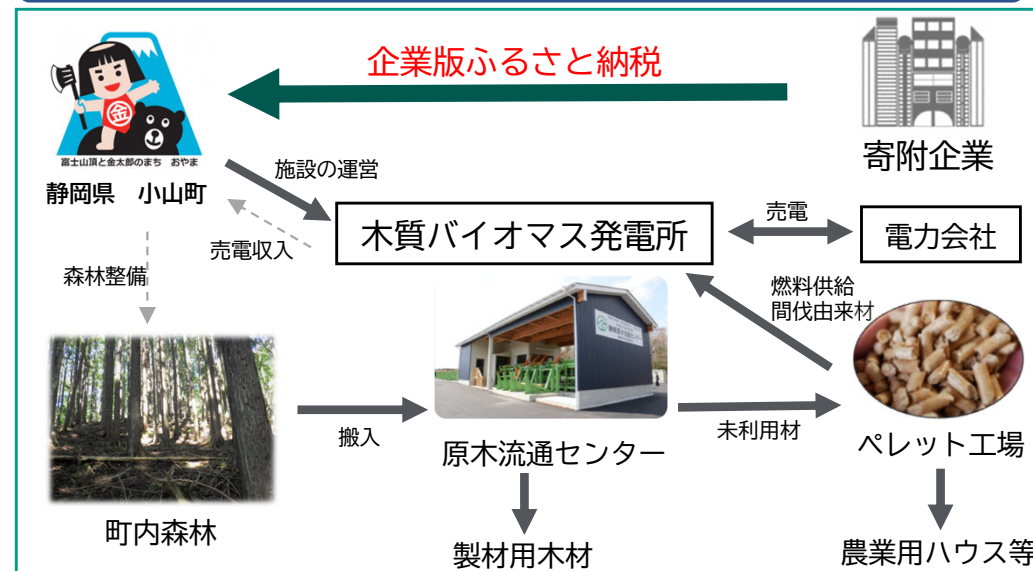
おやまちょう

小山町木質バイオマス発電事業（森の金太郎発電所）

事例概要

自治体名	おやまちょう 静岡県小山町
寄附額 寄附件数	¥ 10,300,000 / 9件 （令和5年度時点の累計）
寄附までの プロセス	町内進出予定企業、林業関係企業に木質バイオマス発電事業の趣旨を説明し、寄付を募った。
事業概要	町内の山林から産出される未利用材（間伐材）を燃料とした木質バイオマス発電事業をおこなっており、年間1,168kwh（令和5年度実績）の発電をしている。
実施状況 （令和5年12月現在）	令和2年度 より事業化済み
寄附企業の 活用ポイント	脱炭素社会に向けた取組に対するCSR活動の一環
寄附企業との 連携・交流等	林業関係者と協力し、林業振興に資するバイオマス発電所の運用に必要な寄附を募った。寄附企業で林業振興に関して町長との意見交換会を実施した。
寄附企業紹介URL	https://www.fuji-oyama.jp/sangyoumachi_08FL3BYL.html

事業スキーム・体制



森の金太郎発電所



整備された森林

9. 企業版ふるさと納税の活用事例

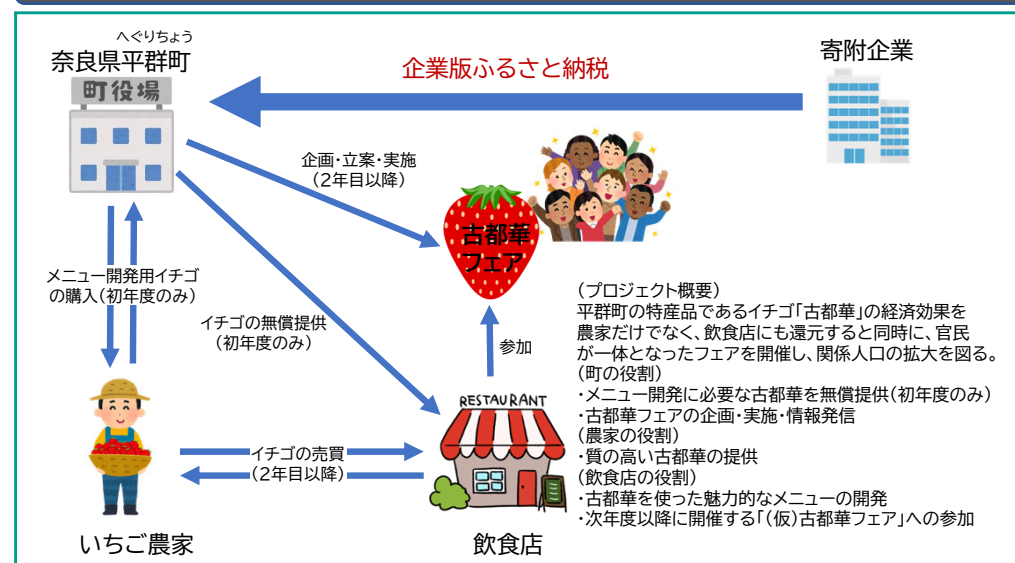
【企業版ふるさと納税活用プロジェクト】農業の振興、関係人口の創出・拡大の取組

ことか 『古都華』PR推進プロジェクト

事例概要

自治体名	へぐりちょう 奈良県平群町
寄附額 寄附件数	¥ 288,468 / 1件 (令和5年度時点の累計)
寄附までの プロセス	・町HPで企業版ふるさと納税の募集を開始 ・奈良中央信用金庫から「町内事業者の振興に役立ててほしい」と寄附の申し出 ・観光産業課とまち未来推進課で事業を企画、実施
事業概要	町内飲食店と連携して、本町で最も人気のある特産品の1つであるイチゴ「古都華（ことか）」を活用したメニュー開発及びフェアを開催することで、関係人口の拡大とイチゴ農家だけでなく、飲食店の活性化を図る。
実施状況 (令和6年3月現在)	令和5年12月 事業企画、 令和6年1月 参加事業者募集 令和6年2月 商品開発完了 令和7年2月 フェア開催予定
寄附企業の 活用ポイント	地域とともにある金融機関として、地方創生や地域活性化に寄与
寄附企業との 連携・交流等	寄附企業の店舗における古都華フェアのポスター掲載及びチラシの配架等による情報発信
寄附企業紹介URL	https://www.narachuo-shinkinbank.co.jp/

事業スキーム・体制



（例）飲食店で開発された古都華を使ったメニュー

9. 企業版ふるさと納税の活用事例

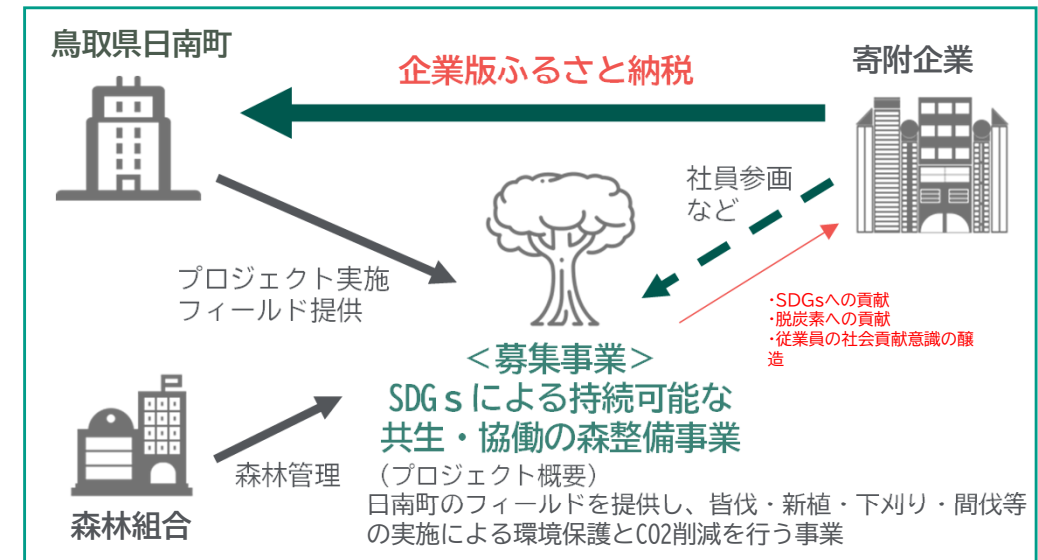
【企業版ふるさと納税活用プロジェクト】林業の振興に関する取組

SDGsによる持続可能な共生・協働の森整備事業プロジェクト

事例概要

自治体名	にちなんちょう 鳥取県日南町
寄附額 寄附件数	¥ 10,700,000 / 10件 （令和5年度時点の累計）
寄附までの プロセス	地元企業、地元金融機関、マッチング事業者等から 企業の紹介、企業の求める社会貢献活動を町で実施可能か 両者で協議を行い、すり合わせ
事業概要	町域の約9割を占め、年間素材生産量が鳥取県の1/3を占める山林について、皆伐・植林・下刈り・間伐等の実施による環境保護とCO2削減を行う事業を実施。 ※補助事業なし
実施状況 (令和5年12月現在)	令和2年度 より事業化済み
寄附企業の 活用ポイント	・CO2の削減量等について定量的な数値データを、 自治体から寄附企業へ提供 ・CSR活動の一環
寄附企業との 連携・交流等	企業との協議を踏まえた事業を実施。 【例】社員研修として町有林内での植林・伐採体験
寄附企業紹介URL	https://www.town.nichinan.lg.jp/soshikikarasagasu/somuka/furusatonouzei/kigyokigyoubannhurusatonouzei.html

事業スキーム・体制



(例) 3.56ha/8,900本の植林を実施した様子(4月~11月)

9. 企業版ふるさと納税の活用事例

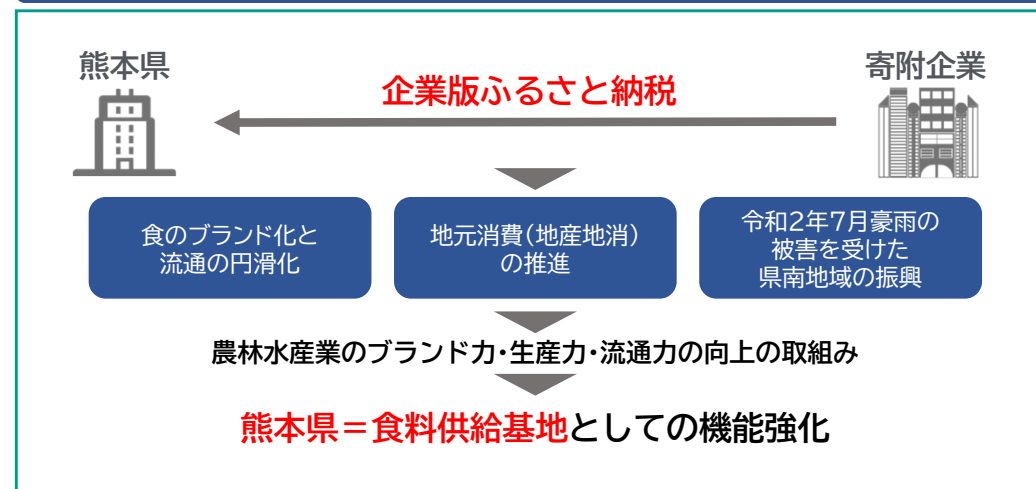
【企業版ふるさと納税活用プロジェクト】農業の振興に関する取組

熊本県農林水産業のブランド力・生産力・流通力の向上の取組み

事例概要

自治体名	熊本県
寄附額 寄附件数	金額非公表／1件（令和5年度時点の累計）
寄附までの プロセス	プロジェクト紹介動画の作成、内閣府主催のオンライン マッチングイベント登壇、企業からの問い合わせ など
事業概要	◆食のブランド化と流通の円滑化 ①トレーサビリティの導入による消費者の信頼確保 ②フードバリューチェーンの最適化による新たな付加価値の伝達 ③大都市圏への県産品供給を維持するための物流体制の構築 ◆地元消費（地産地消）の推進 ①学校給食における地元食材の利用、理解促進 ②直売所のネットワーク化による消費促進 ◆令和2年7月豪雨の被害を受けた県南地域の振興 ①田んぼダムの取組みの推進（球磨川流域治水プロジェクト） ②多様な企業等の農業参入促進と地域経済の活性化 ③「くまもと県南フードバレー構想」の更なる推進と地場企業の育成
実施状況 (令和6年3月現在)	令和5年度 より事業化済み
寄附企業の 活用ポイント	HP掲載によるPR、関係自治体とのパートナーシップ構築 など
寄附企業との 連携・交流等	各種イベントの案内 など
寄附企業紹介URL	https://www.pref.kumamoto.jp/soshiki/18/51523.html

事業スキーム・体制



県HPへの動画掲載やマッチング会
などへの登壇により事業をPR



事業内で各種イベントの開催

9. 企業版ふるさと納税の活用事例

【企業版ふるさと納税活用プロジェクト】畜産の振興に関する取組、関係人口の創出・拡大の取組

たから

財部高校跡地を活用した南九州畜獣医学拠点事業

事例概要

自治体名	鹿児島県曾於市
寄附額 寄附件数	¥ 228,500,000 円 / 89 件（令和6年度時点の累計）
寄附までの プロセス	- 自治体から企業版ふるさと納税の募集を実施 - マッチング事業者等から企業を紹介され、企業が求める社会貢献活動を市で実施可能か両者で協議
事業概要	南九州畜産獣医学拠点（通称：SKLV(スクラブ)）を、国際（欧米）水準の実践的学部教育と専門的学び直し教育の拠点とし、全国から畜産・獣医学部生を受け入れ、農畜産業を取り巻く大きな環境変化に対応できる能力を備えた獣医師及び畜産技術者を養成するとともに、当該施設の人材・施設等を活用し、地域の畜産関係者及び畜産農家に最新の家畜防疫技術等の学びの場を提供することにより、農畜産業の更なる振興、人材の育成・確保及び新しい人の流れを生みだす。
実施状況 （令和6年6月現在）	令和6年度 より事業化
寄附企業の 活用ポイント	農畜産業に係る人材育成・地方創生
寄附企業との 連携・交流等	- 施設内に銘板の設置による寄附企業の情報発信 - 寄附企業社員に対する施設の見学ツアーの開催
寄附企業紹介URL	https://www.city.soo.kagoshima.jp/gyousei/kihunituite/2021-0412-1534-10.html

事業スキーム・体制



南九州畜産獣医学拠点の施設全体



施設内で飼育する馬での臨床実習の様子